




電子燃料噴射装置への損傷を避けるため、イグニッションスイッチが「」位置にある状態で、バッテリーを取り外したり、取り付けたりしないでください。

本車両を長期間放置すると、ガソリンやエンジンオイルが劣化し、始動できない状況に陥る可能性があります。

ほこりの多い環境や、速い速度での乗車、スタートや停止の多用、極端な乗車習慣などの苛酷な条件下で運転する場合は、こまめに点検してください。

乾燥した草や葉などの可燃物から遠ざけてください。車両を駐車するときは、排気管やマフラーに可燃物が接触しないようにしてください。

本取扱説明書をよくお読みください

本取扱説明書には、KYMCO AROMA150の安全性、操作、メンテナンスに関する重要な情報が含まれています。乗車する前に、乗車するすべての人が、本取扱説明書の内容を注意深く読み、理解するようにしてください。個人の安全のために、本取扱説明書に含まれているすべての警告と車両に貼られているラベルを理解してそれに従ってください。本取扱説明書は、車両の永久的な一部とみなし、スクーターと共に保管するようにしてください。本スクーターは、オンロードでのみ使用してください。

本取扱説明書では、特に重要な情報には、次の記号および信号語が付記されています。



安全アラート記号は注意！を意味します。警告！安全に影響を及ぼす可能性あり、を意味しています。



これらの指示を遵守しないと、重傷または死亡につながる可能性があります。



これらの指示は、損傷を防止するために従う必要のある特別な注意事項を示しています。



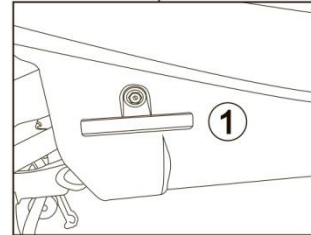
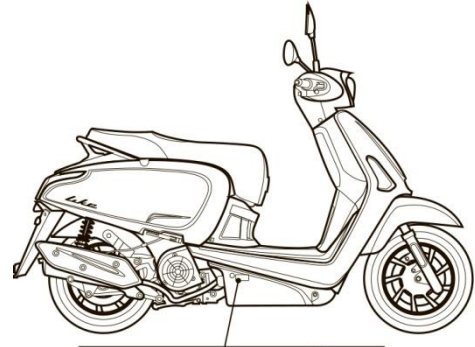
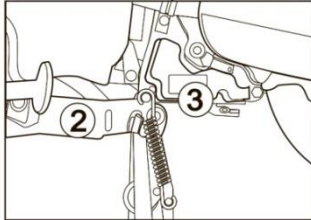
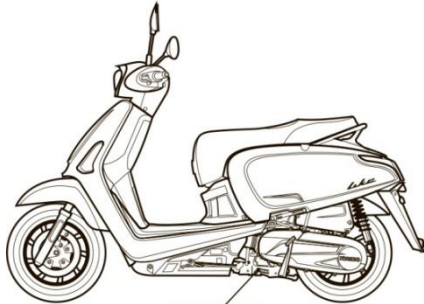
注記は追加の重要な情報を示しています。

識別番号の記録

車両識別番号 (VIN)

エンジンシリアル番号 (ESN)

KYMCO認定販売店から部品を注文する際、
または車両が盗まれた場合の参照用に、上
記の空欄に車両識別番号①または②、エン
ジンシリアル番号③を記録してください。



目次

第1章 - 前書きおよび安全上のご注意	1	エンジンオイル.....	36
前書き.....	1	エンジンオイルの交換.....	37
スクーターの安全性.....	2	トランスミッションギアオイルの交換... ..	38
アクセサリ&改良.....	4	エアクリーナーフィルターエレメント... ..	39
パーツ&制御装置の位置.....	5	スロットル操作.....	41
第2章 - 制御&機能	8	スパークプラグ.....	42
イグニッションスイッチ.....	8	ブレーキ液レベルの点検.....	44
セキュリティシャッター.....	9	ブレーキパッドの検査.....	46
計器.....	10	バッテリー.....	47
アクセサリソケット電源.....	16	ヒューズ.....	48
右ハンドルバースイッチ.....	18	タイヤ.....	49
左ハンドルバースイッチ.....	19	清掃.....	50
推奨ガソリン.....	20	保管.....	52
シート.....	21	クランクケースブローバイドレイン.....	53
ヘルメットホルダー.....	22	排出制御	54
サスペンション.....	23	保守記録	55
第3章 - 運転	24	AROMA 150の仕様	57
乗車前の点検.....	24		
慣らし走行.....	25		
エンジンの始動.....	26		
ABSシステム (ABSモデルの場合).....	29		
第4章 - メンテナンス	31		
メンテナンススケジュール.....	33		

第1章 - 前書きおよび安全上のご注意

前書き

KYMC O AROMA 150をご購入いただきありがとうございます。また、**KYMC O**ファミリーにご参加いただきありがとうございます。乗車する前に、制御装置の正しい操作方法、特徴、機能および制限について十分にご理解いただくため、本取扱説明書をご一読ください。本車両を問題なく末永くご利用いただくため、本取扱説明書の記載に従って、適切なお手入れとメンテナンスを行ってください。

交換用パーツやアクセサリには、正規の**KYMC O**製品を常に使用してください。お客様の車両用に特別に設計及び製造されたもので、基準を満たしています。本取扱説明書は常にスクーターと共に保管し、情報が必要な時にいつでも参照できるようにしてください。本取扱説明書はスクーターの永久的な一部とみなし、売却時には車両に本取扱説明書を付属するようにしてください。

本取扱説明書に記載されているすべての情報、イラスト、写真、および仕様は、出版時に入手可能な最新の製品情報に基づいたものです。改良やその他の変更により、実際の車両と若干異なる場合があります。**KYMC O**は、通知することなく、またいかなる義務も伴わずに、いつでも製品や出版物を変更できる権利を留保します。

スクーターの安全性

重要な安全に関する情報

安全に対する自己責任を持ち、路上で直面する可能性のある問題について理解しておくことで、耐用年数を延ばすことができ、長年に渡りご使用いただけます。自分自身を守るためにできることはたくさんあります。本取扱説明書の本章では、多くの有用な推奨事項といくつかの非常に重要なヒントを説明します。

ヘルメットを着用する

安全装備は高品質ヘルメットから始まります。交通事故で負う最も深刻な怪我の1つは頭部の怪我です。適切な承認されたヘルメットを常に着用してください。また、適切な目の保護具を着用してください。

人の目に留まりやすくする

自分の姿を見えやすくするため、反射性のある明るい色の衣服を着用し、他のドライバーが目で明らかに確認できる位置に来るようにしてください。曲がる時や車線を変更する時には合図を送りましょう。また、他の人に気づいてもらうために有効な場合はクラクションを鳴らしてください。

自分自身の限界を知る

常に個人的なスキルの範囲内で乗車してください。これらの限界を知り、その範囲内に留まることが事故防止に役立ちます。

車両を安全な状態に保つ

安全に乗車するために、毎回乗車する前に車両を点検し、推奨されるすべてのメンテナンスを実施することが大切です。荷重制限を超過しないようにしてください。また、承認された付属品を使用してください。

乗車前に車両を検査する

乗車する前に、すべてのライダーの安全性を確実なものにするため、毎回すべての安全点検を必ず行うようにしてください。

雨の日には特に注意する

雨の日に乗車する場合、特に濡れているときは、さらに注意を払ってください。雨の日には制動距離が長くなります。特に滑りやすくなっている場合があるため、塗装された表面、マンホールカバー、舗道が油で汚れているように見えるエリアは避けてください。踏切の上、または金属面の上にいるときは、特に注意してください。道路の状況が疑わしい場合は、常に速度を落とすようにしてください。

改造

車両を改造したり、正規の備品を取り外すと、車両の安全性が失われたり、違法となったりする可能性があります。当局からの機器に関連するすべての規制を遵守してください。

スクーターの安全性

防護服

安全のため、乗車する時には、認可されているオートバイまたはスクーター用のヘルメット、目の保護具、ブーツ、手袋、長ズボン、および長袖シャツまたはジャケットを着用してください。

ヘルメットと保護

頭部の損傷を防ぐために最も有効なヘルメットは、最も重要な装備です。ヘルメットはしっかりと快適に頭部に着用できるものである必要があります。目を保護して視界を妨げないようにするため、フェイスシールドまたはゴーグルを常に着用してください。

その他のライディング用装備

頭部と目の保護具以外にも、次を利用することができます。

足と足首を保護するために役立つ、靴底が滑り止めになった頑丈なブーツ。

手を温かく保ち、まめや切り傷、やけど、打撲から保護するための革製手袋。

スクーター用スーツは、快適性と保護を実現するために設計されています。明るい色の反射ストライプを使用することで、周囲の車両や人から気づいてもらいやすくすることができます。車両のパーツに引っかかる恐れのある、ゆったりした衣服は避けるようにしてください。

推奨されるライディング用装備：

- ① 手袋を着用すること
- ② 体にフィットする衣服を着用すること
- ③ ヘルメットと目の保護具を常に着用すること
- ④ 明るいあるいは反射性の衣服を着用すること
- ⑤ 靴は適切なサイズで、ヒールが低く、足首を保護するものを選ぶこと。



- ヘルメットを着用しなかった場合、事故で重傷を負ったり死亡したりする可能性が高くなります。
- パッセンジャーとライダーは、適切にフィットする認可されたスクーター用のヘルメットを常に着用するようにしてください。乗車中は、目の保護具やその他の保護衣服も着用するようにしてください。

アクセサリ & 改造

KYMCО車両をご購入いただくと、豊富な種類のアクセサリをご利用いただけます。ライダーが購入を希望する可能性のあるアクセサリの品質やその適合性は、KYMCОが直接管理できるものではありません。不適切なアクセサリを追加することで、危険な運転状況につながる可能性があります。市場で販売されているすべてのアクセサリや、入手可能なすべてのアクセサリの組み合わせをKYMCОがテストすることは不可能です。しかしながら、KYMCОディーラーでは、高品質アクセサリの選択やそれらの適切な取り付けに対してサポートを提供しています。

アクセサリの選択や取り付けには、十分な注意が必要です。

改造しないでください：

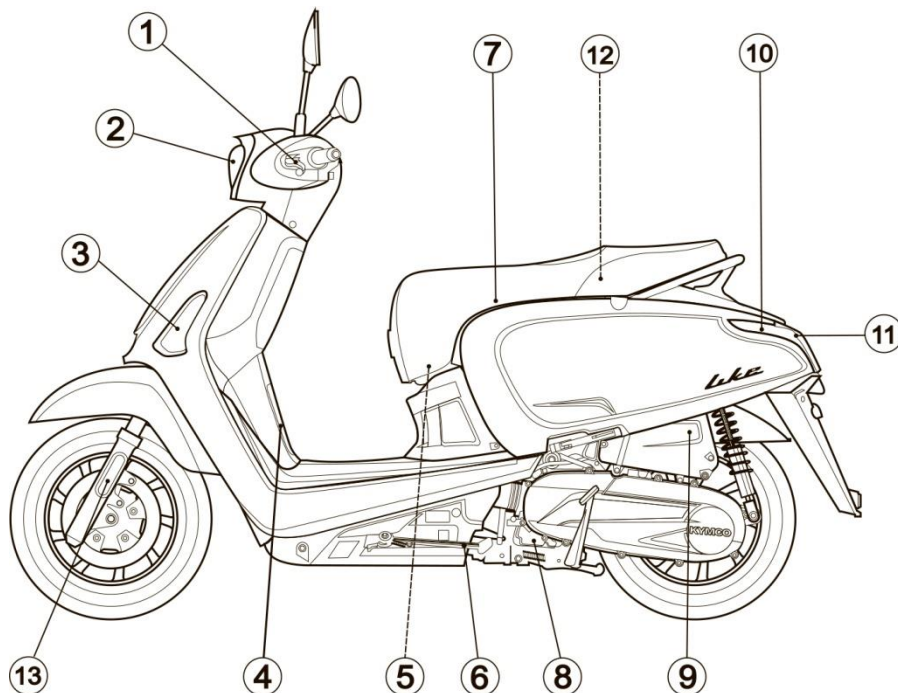
KYMCОでは、正規の備品の取り外しや、車両のデザインや操作を変更するような改造はしないよう強く推奨しています。



不適切なアクセサリや改造は、車両を危険にさらす可能性があり、事故につながる場合があります。不適切な取り付けやアクセサリを使用して、車両を改造することは絶対にしないでください。本車両に追加するパーツやアクセサリはすべて、純正のKYMCО部品またはそれに相当する本車両用に設計された部品を使うようにしてください。また、正しい指示に従って取り付け、使用するようにしてください。ご質問がある場合は、KYMCО認定販売店にお問い合わせください。

パーツ & 制御装置の位置

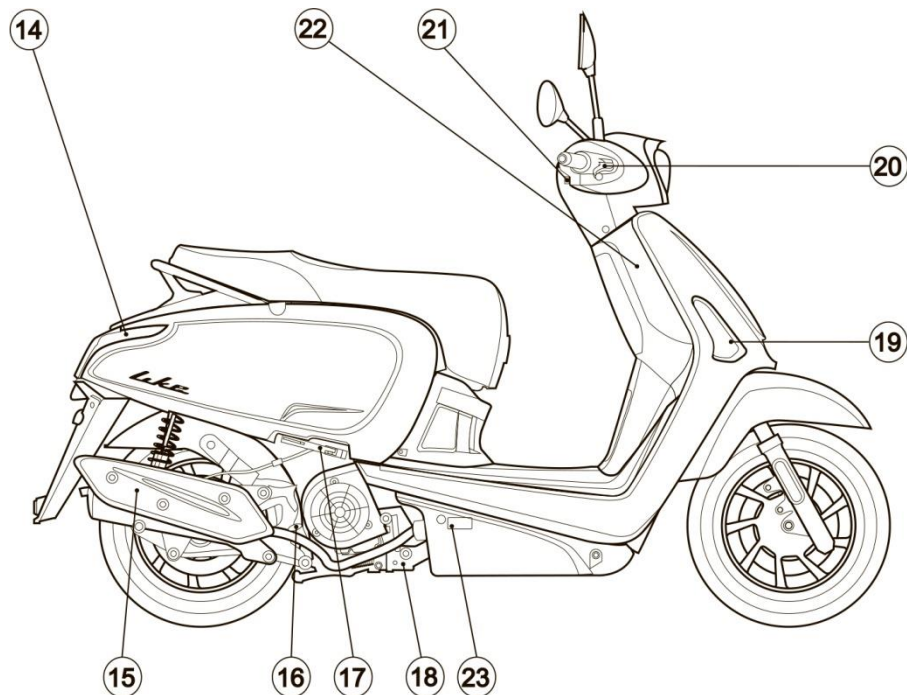
- ① リアブレーキレバー
- ② ヘッドライト
- ③ フロント左ウィンカーライト
- ④ 燃料フィルターキャップ
- ⑤ ヘルメットフック
- ⑥ サイドスタンド
- ⑦ シート
- ⑧ エンジン番号
- ⑨ エアクリーター
- ⑩ リア左ウィンカーライト
- ⑪ 尾灯・ブレーキライト
- ⑫ ラゲージボックス
- ⑬ リフレクター



■ 注記：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

パーツ & 制御装置の位置

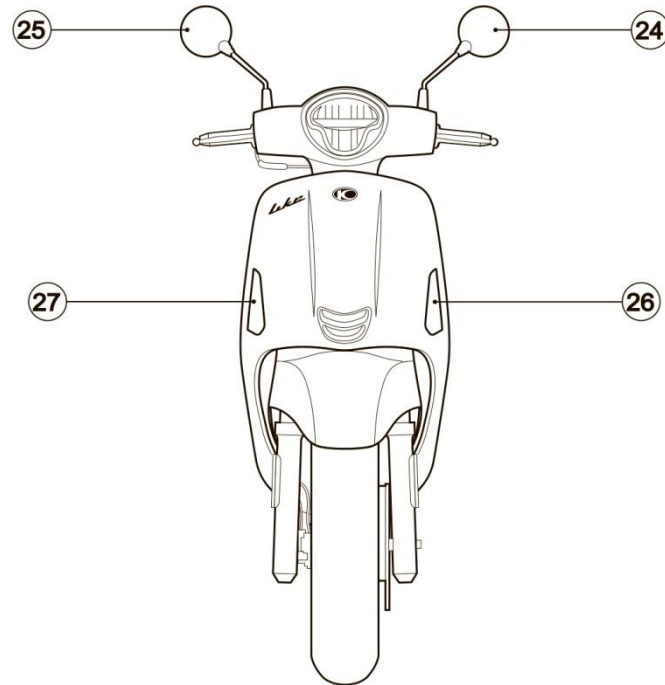
- ⑭ 右ウィンカーライト
- ⑮ マフラー
- ⑯ オイルフィルターキャップ
/オイルケージ
- ⑰ 後部パッセンジャース
テップ
- ⑱ センタースタンド
- ⑲ 右ウィンカーライト
- ⑳ フロントブレーキレバー
- ㉑ 電動スターターボタン
- ㉒ イグニッションスイッチ
- ㉓ 車両識別番号 (VIN)



■ 注記：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

パーツ & 制御装置の位置

- ②4 左バックミラー
- ②5 右バックミラー
- ②6 左ウィンカーライト
- ②7 右ウィンカーライト



■ **注記**：お客様のスクーターの外見は、本マニュアルに記載されている画像と若干異なる場合があります。

第2章 - 制御&機能

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチとその機能を操作します。


「」位置の場合：

すべての電気回路はオフになっています。エンジンを作動または始動することができません。




「」位置の場合：




点火回路が「オン」になっており、エンジンをスタートすることができます。この位置にある場合、イグニッションスイッチからキーを外すことはできません。




「」位置の場合：

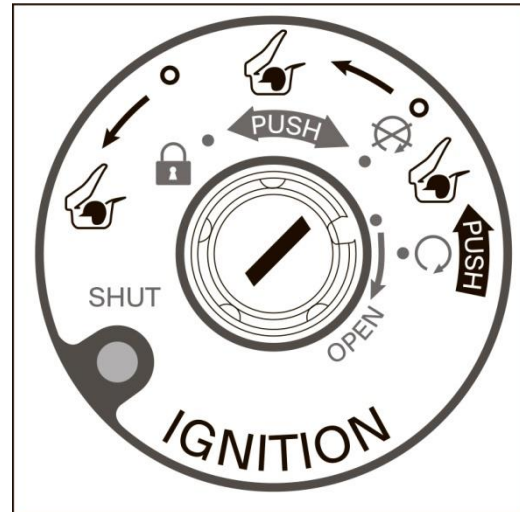
ステアリングをロックするには、ハンドルバーを左いっぱいに戻し、キーを「」の位置まで回して押し下げてからキーを抜きます。すべての電気回路はオフになっています。

「」位置の場合：

イグニッションキーが「」位置にある場合は（エンジンが稼働している時）、キーを押し入れて、反時計回りに「」から「」位置に回します。

イグニッションキーが「」位置にある場合は（エンジンが稼働していない時）、反時計回りに「」から「」位置に回します。

イグニッションキー「」位置にある場合は、反時計回りに「」から「」位置に回します。シートの後ろ側を引っ張って持ち上げます。

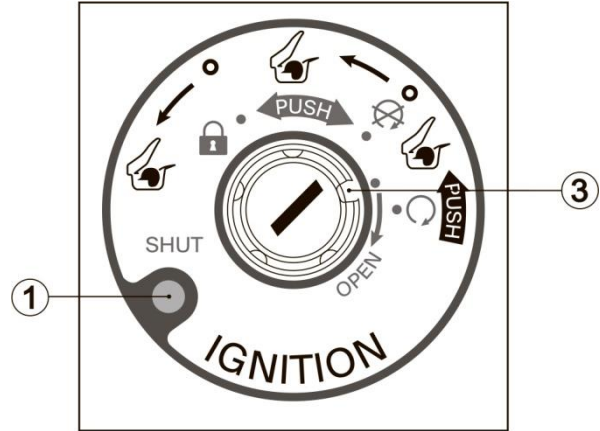


制御および機能

セキュリティシャッター

イグニッションスイッチのセキュリティシャッターを閉じる方法：

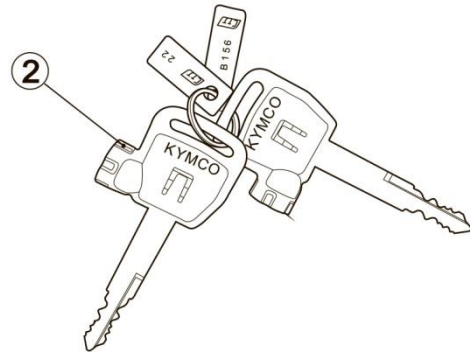
イグニッションスイッチのシャッターボタン①を押して、キーシャッターを閉じます。



イグニッションスイッチのセキュリティシャッターを開く方法：

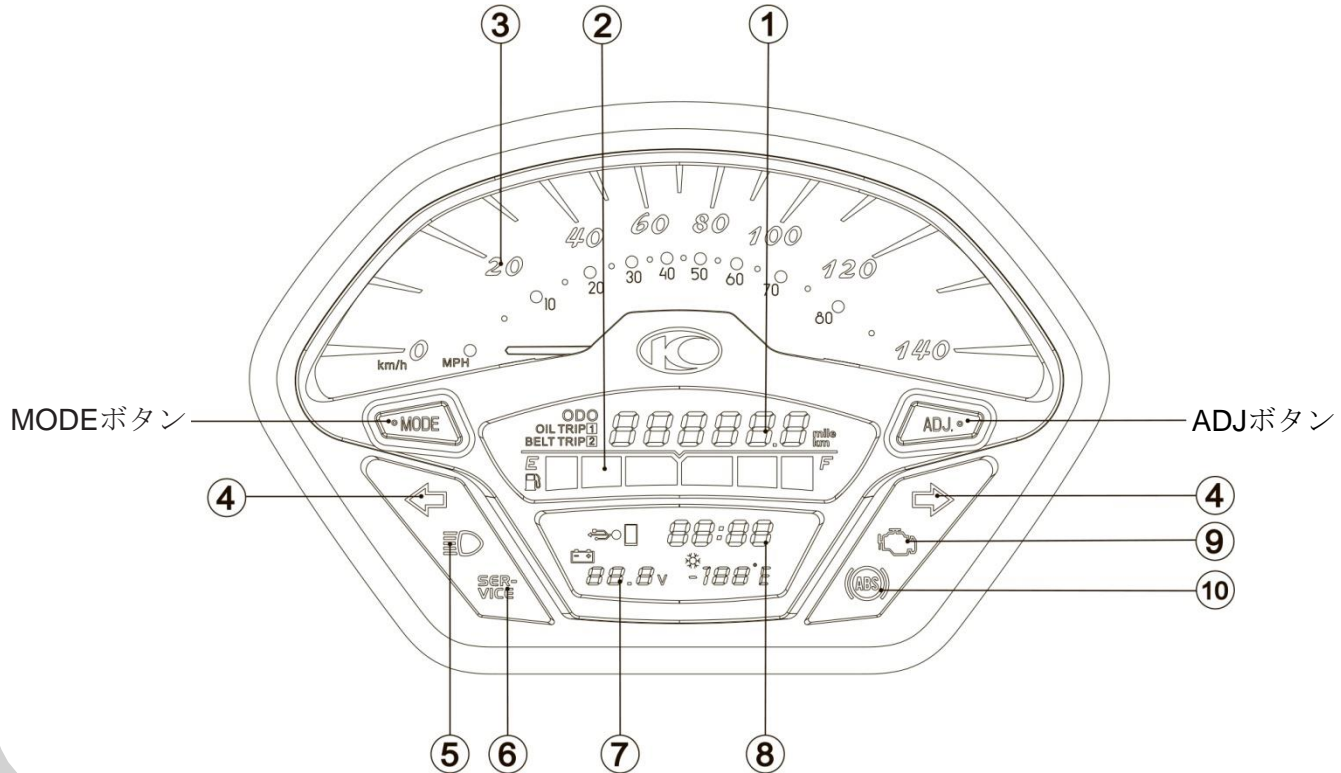
ノッチ②の位置がピン③の位置にくるまで、シャッターキーを挿入します。

反時計回りに回すと、キーシャッターが開きます。



制御および機能

計器



制御および機能

① 走行距離計/トリップメーター：

- **MODE**ボタンを押して、**ODO**モード、トリップモード、オイルサービスまたはブランクモードを切り替えます。
- トリップモードまたはオイルサービスモードを選択し、**MODE**と**ADJ**の両方を2秒間押し続けると数値をリセットできます。
- **ADJ**を押すと、キロメートル表示とマイル表示を切り替えることができます。

② ガソリン残量メーター：ガソリンタンクのガソリン残量が表示されます。ガソリンタンクがほぼ空になった時に、できる限り早くタンクを補充する必要があることを警告します。

③ スピードメーター：道路速度をkm/hまたはmphで示します

④ ウィンカー表示灯：どちらかのウィンカーが使用されている時に点滅します。

⑤ ハイビーム表示灯：ハイビームがオンになっている時に点灯します。

⑥ サービスインジケーター：2000kmごとに点灯し、オイルサービスを行うように促します。20000kmごとに点灯し、ドライブベルトの交

換を促します。イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、自己診断後に消灯します。

⑦ バッテリー電圧表示

⑧ デジタル時計

⑨ CELPインジケーター：

エンジンの始動後、点灯し続ける場合、**EFI**または電気系統に障害が検出されたことを示します。公認の**KYMC**Oディーラーが直ちに点検する必要があります。

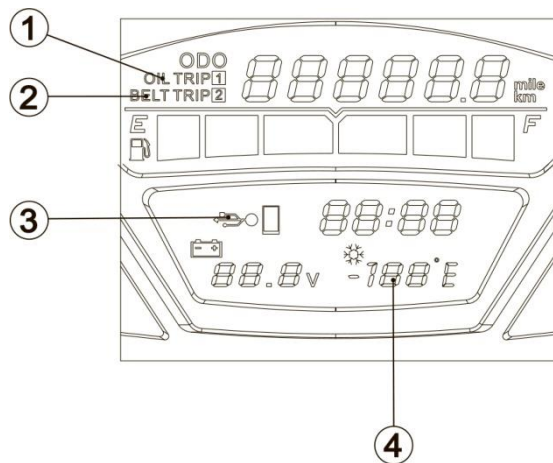
⑩ ABS表示灯

イグニッションスイッチがアクティブになると、**ABS**インジケーターが常に点灯します。車両の速度が**6km/h**以上になると消灯します。

■ **注記**：CELPは、イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

制御および機能

- ① オイルトリップ：2000kmごとに点滅し、オイルサービスを行うように促します。エンジンオイルを交換した後、リセットする必要があります。
- ② ベルトトリップ：20000kmごとに点滅し、ドライブベルトの交換を促します。ドライブベルトを交換した後、リセットする必要があります。
- ③ 充電メーター：電子機器を接続すると、充電中はインジケータが点灯し、充電していないときは消灯します。バッテリー電圧が低すぎると点滅します。電流が過負荷になると、デバイスを保護するために回路が切断されます。
- ④ 環境温度メーター：
環境温度を表示します。
 - ADJを2秒間押し続けて、摂氏（℃）と華氏（℉）の温度を切り替えることができます。



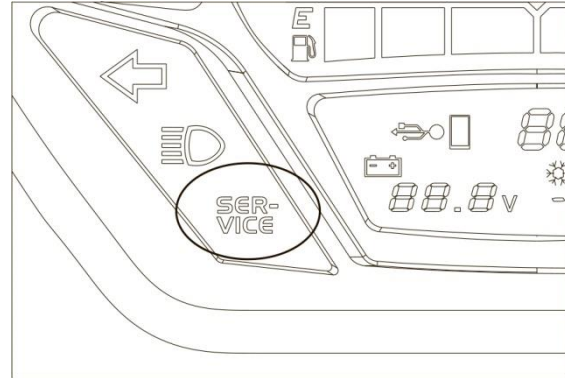
制御および機能

サービスインジケータのリセット：

エンジンオイルを交換した後、サービスインジケータをリセットする必要があります。

1. **MODE** ボタンを押すと、多機能ディスプレイが順番に繰り返し変化します（ODO→TRIP→Oil TRIP→BELT TRIP）。
2. **OIL TRIP** モードまたは**BELT TRIP** モードを選択し、**MODE** ボタンと**ADJ** ボタンを同時に2秒間押すと、表示が**0.0**に変わり、サービスインジケータがリセットされます。
3. 次の**2000km**（オイルトリップ）または**20000km**（ベルトトリップ）に達すると、サービスインジケータが再び点灯します。

- **注記：** サービスインジケータが点灯しているときは、ODO/トリップ/オイルトリップ/ベルトトリップが点滅します。



制御および機能

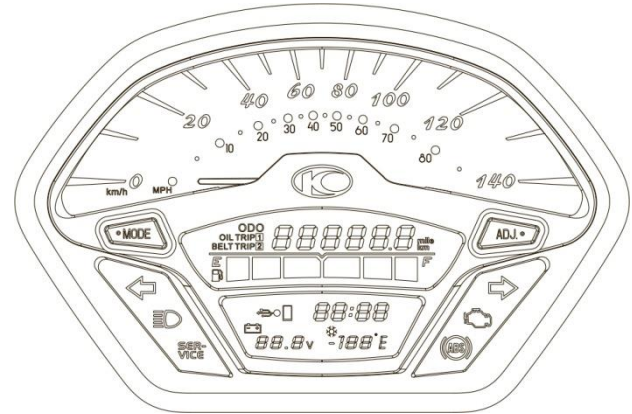
時計の調整

設定手順：

1. イグニッションスイッチを「オン」位置に切り替えてください。
2. **MODE**ボタンを押して、**ODO**モード、トリップモード、オイルサービスを切り替え、**ODO**モードを選択します。

■ **注記：** デジタル時計はODOモードの場合のみ調整することができます。

3. **MODE**と**ADJ**の両方を2秒以上押します。
「時間」の数字が点滅し始めます。**ADJ**ボタンを押すと調整できます。
4. **MODE**ボタンを押すと、「分」の数字が点滅し始めます。**ADJ**ボタンを押すと調整できます。
5. **MODE**と**ADJ**を同時に押して、時計の設定を完了します。



■ **注記：** 約10秒以内にボタンを押さない場合、調整はキャンセルされます。

■ **注記：** バッテリーが取り外されると、時計は12:00にリセットされます。

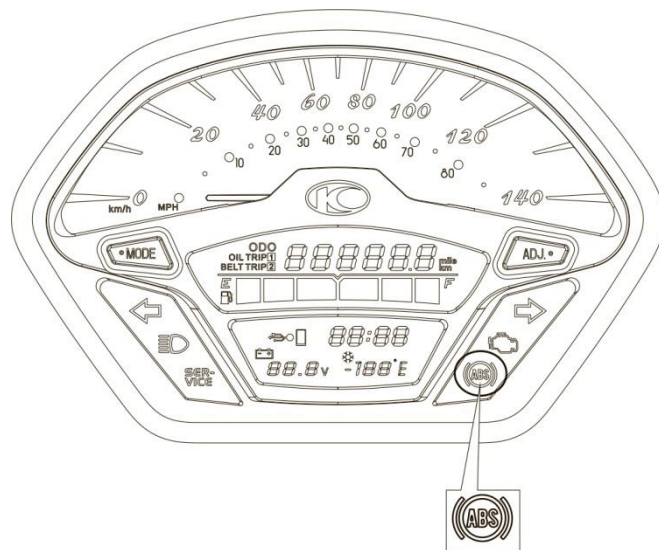
制御および機能

ABS表示灯

ABSインジケータライトは、多機能メーターの右側にあります。イグニッションスイッチがオンになった時、ABSシステムは自己診断を行い、正常であれば点灯します。車両が動き出した直後にオフになります。ABSインジケータライトは、ABSシステムが正常に動作している限り消灯し続けます。

ABSユニットがABSの故障を検出した場合にはABSインジケータが点灯し、故障が修復されるまで点灯し続けます。ABSシステムが故障している場合でも、システムはABSシステムのない車両のように、従来の制動条件で通常に動作します。

- **注記：** ABSが障害を示している場合、KYMCO正規販売店に直ちにABSシステムを確認してもらうことが非常に重要です。



制御および機能

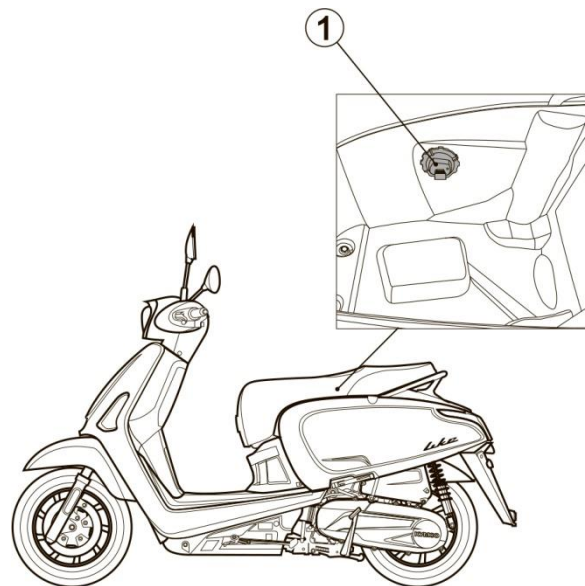
アクセサリソケット電源

本車両にはアクセサリソケット電源が付属しています。これを使用して、以下の容量に適合する電子機器を使用することができます。

- アクセサリソケット電源を使用する場合は、イグニッションスイッチをオンに切り替え、エンジンを始動してください。
- シートを開きます。
- アクセサリソケット電源のキャップ①を開いてください。
- 使用する電子機器をアクセサリソケットに差し込んでください。

定格容量：

出力電圧：DC 12V、最大出力電流：0.8A



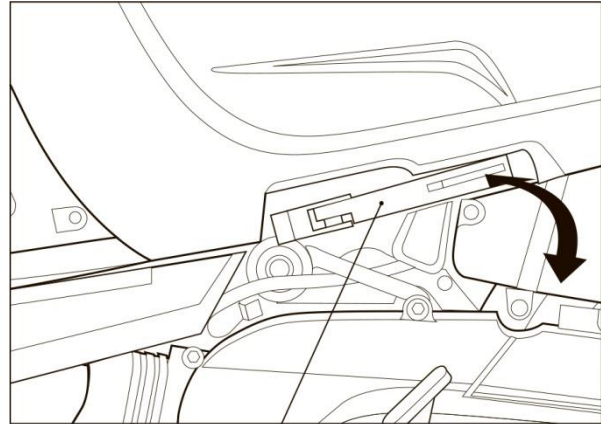
制御および機能

パッセンジャーフットステップ

スクーターには、パッセンジャーが乗るときに使用する追加ステップが装備されています。

1. パッセンジャーステップをスクーターの本体から展開するには、ステップのバックエンド①を押します。
2. パッセンジャーを乗せていないときは、ステップを元の位置に押し戻します。

その他の保護衣服も着用するようにしてください。




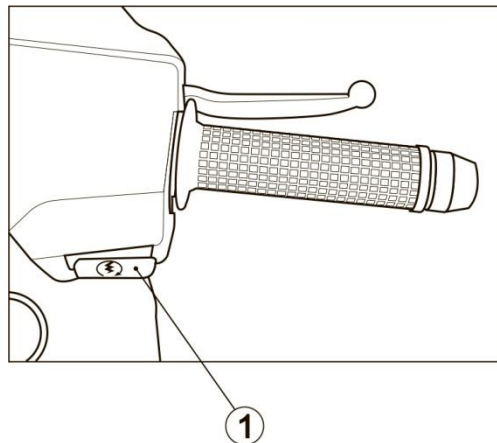
- パッセンジャーと一緒に乗車すると、スクーターのハンドリング特性が変わります。制動距離が長くなること考慮し、一般道路で乗車するときは特に注意してください。
- ライダーとパッセンジャーは、適切にフィットする認可されたオートバイ用のヘルメットを常に着用するようにしてください。乗車する時には、目の保護具やそ

制御および機能

右ハンドルバースイッチ

スターターボタン①：

ブレーキを握りながらスターターボタン「」を押してスターターモーターを作動させます。



- **注記：**エンジン稼働中はスターターボタンを押さないでください。エンジン内部の部品が破損する可能性があります。

制御および機能

左ハンドルバースイッチ

ウィンカースイッチ①：

他のドライバーに転回または車線変更の意図を知らせるために押します。スイッチを左または右に押すと、ウィンカーライトが点滅します。

「←」：左に転回する場合。

「→」：右に転回する場合。

ウィンカースイッチをオフにする場合は、スイッチをもう一度押してください。

ホーンボタン②：

クラクションを鳴らすには、ホーンボタンを押します。

ディマースイッチ③：

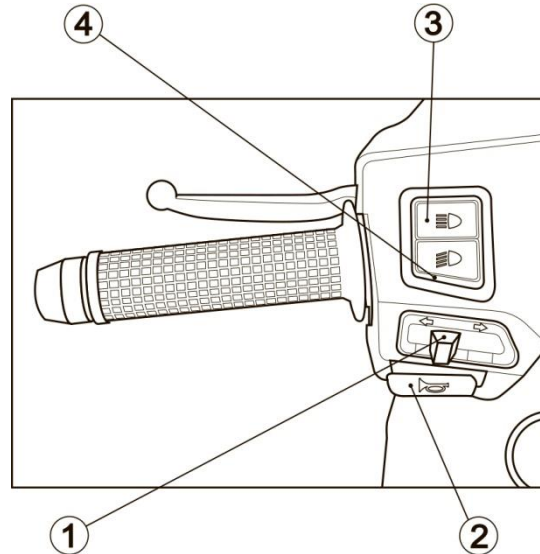
ライトをハイビームまたはロービームに切り替えます。

「≡D」：ロービームの場合。

「≡D」：ハイビームの場合。

パッシングボタン④：

このボタンを押して、ヘッドライトをハイビームで点滅させ、前方の他のドライバーに追い抜きの意図を知らせます。



制御および機能

燃料計の点検 / 補充

ガソリン残量インジケーターが点滅したら、指定された無鉛ガソリンを給油してください。

燃料タンクフィルター：

給油する場合は、以下を行ってください。

1. 燃料タンクフィルターカバーを開きます。
2. イグニッションキーを使って燃料キャップのロックを解除します。
3. キーを時計回りに回して燃料キャップのロックを外します。
4. ロックを解除すると、燃料キャップを外すことができます。

燃料キャップを取り付けるには、次の手順を実行します。

1. 燃料フィルターネックの所定の位置に押し戻します。
2. キーを差し込んだ状態で燃料キャップを押し戻します。
3. 三角形のマークが手前にあることを確認します。
4. キーを取り外し、燃料タンクフィルターカバーを閉じます。

推奨ガソリン

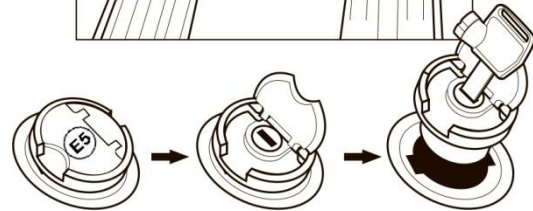
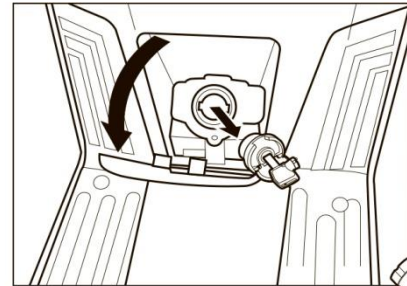
フュエルインレットからガソリンが漏れて火災を引き起こすことのないよう、給油後は、フュエルタンクキャップが完全にロックされていることを確認してください。

ガソリンの種類とオクタン価

エタノール含有量5%以下で、下の表に示す値以上のオクタン価の、清潔で新鮮な無鉛ガソリンを使用してください。

ガソリンの種類	無鉛ガソリン
エタノール含有量	E5以下
最小オクタン価	リサーチオクタン価 (RON) 92

- 注記：エタノール含有量5%以下のガソリン



制御および機能

シート

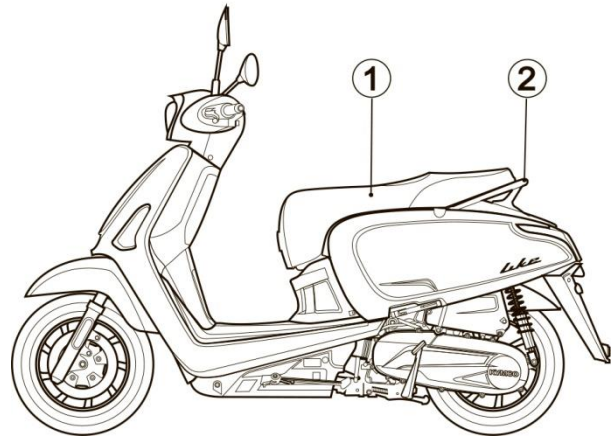
シートをロック解除するには

イグニッションキーが「🔌」位置にある場合は（エンジンが稼働している時）、キーを押し入れて、反時計回りに「🔌」から「👉」位置に回します。

イグニッションキーが「🔒」位置にある場合は（エンジンが稼働していない時）、反時計回りに「🔒」から「👉」位置に回します。

イグニッションキーが「🔒」位置にある場合は、

反時計回りに「🔒」から「👉」位置に回します。シートの後ろ側を引っ張って持ち上げます。



最大貨物重量：

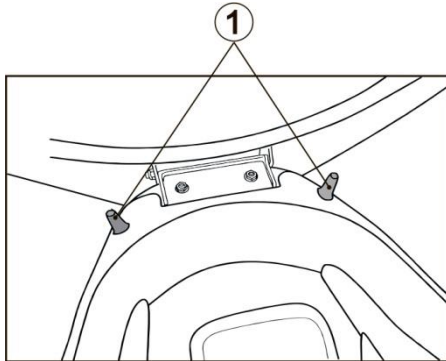
① ラゲージボックス10Kg

② リアキャリア5Kg

制御および機能

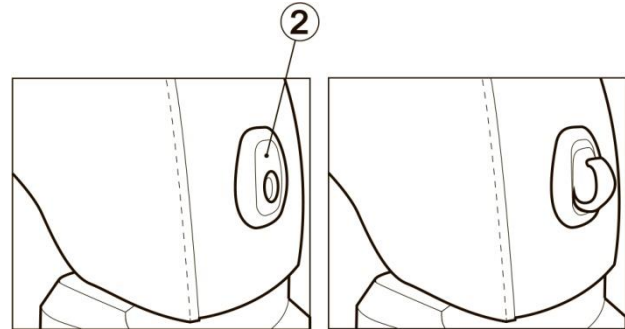
ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーを使用する場合は、シートを開き、ホルダーフック①にヘルメットを吊り下げて、シートをしっかりとロックしてください。



フック

フロントフックを使用する場合は、ボタン②を押すとフックが出てきます。



ヘルメットホルダーは駐車中のみ使用してください。
ヘルメットをホルダーに吊るした状態で乗車しないでください。

最大貨物重量：

フック（フロント） 3Kg

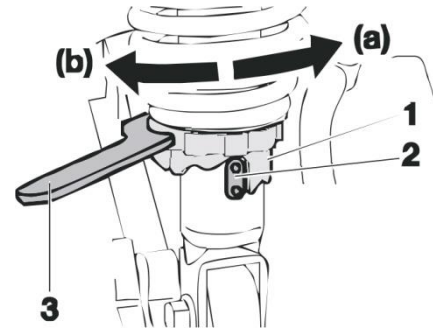
制御および機能

サスペンション

リアショックアブソーバーアセンブリには、スプリングプリロード調整リングが装備されています。スプリングプリロードを次のように調整します。

スプリングプリロードを増やしてサスペンションを硬化させるには、各ショックアブソーバーアセンブリの調整リングを方向 (a) に回します。スプリングプリロードを減らしてサスペンションを柔らかくするには、各ショックアブソーバーアセンブリの調整リングを方向 (b) に回します。

調整リングの適切なノッチをショックアブソーバーの位置インジケータに合わせます。



1. スプリングプリロード調整リング
2. 位置インジケータ
3. スプリングプリロード調整ツール



両方のショックアブソーバーを、スプリングプリロードの同じポジションに調整するようにしてください。

ショックアブソーバーを不適切に設定すると、ハンドリングが不安定になり、事故につながるおそれがあります。

第3章 - 運転

乗車前の点検

安全のため、乗車する前には毎回オートバイの周りを一周し、状態を確認する時間をとることが非常に重要です。不具合を発見した場合は、必ず対処するか、KYMCOディーラーに修理を依頼してください。



オートバイのメンテナンスが不適切であったり、乗車する前に問題を解決しなかった場合、事故へとつながる恐れがあり、深刻な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。乗車前には、必ず毎回乗車前の点検を実施し、問題を発見した場合は解決してください。

1. エンジンオイルのレベル：

必要に応じてエンジンオイルを足してください。

漏れがないかどうかを確認してください。

2. ガソリンの残量：

必要に応じて燃料タンクを補給してください。
漏れがないかどうかを確認してください。

3. フロントブレーキおよびリアブレーキ：

動作を確認してください。ブレーキオイルが漏れていないことを確認してください。

4. タイヤ：

状態と空気圧を確認してください。

5. スロットル

スムーズに動作しているか、またすべてのステアリングポジションで完全に閉まっているか確認してください。

6. ライトとホーン：

ヘッドライト、尾灯・ブレーキライト、ウィンカー、インジケーターおよびホーンが正常に機能しているか確認してください。

7. ステアリング：

状態と円滑さを確認してください。

操作

慣らし走行

乗車の最初の1600km（1000マイル）は、使用寿命にとって非常に重要です。この期間中に適切な慣らし運転を実施すると、寿命と性能を最大限発揮することができます。

慣らし運転期間中に特別なお手入れや動作を制限することで信頼性と性能に差が出ます。

慣らし運転期間中は次の制限をお守りください。

最初の800km（500マイル）：

1/2スロットルを超えないようにします

1600km（1000マイル）まで：

3/4スロットルを超えないようにします

エンジン速度を変化させる

エンジン速度を変化させ、長時間一定速度を維持しないようにしてください。また、慣らし運転期間中は過負荷を避けてください。

一定の低速を避ける

低負荷であっても、エンジンを一定の低速で動作させると、動作部品に問題が発生する可能性があります。慣らし運転期間中は、エンジンを優しく始動してください。

フルスロットル操作を避ける

エンジンを高速度で動作させると、動作部品に潤滑の問題が発生します。慣らし運転期間中は、制限速度を維持してください。



1000km（600マイル）の初期点検は、将来において車両の最適な状態を保証するために非常に重要です。

操作

エンジンの始動

本書および以下のページに記載されている適切な始動手順に常に従うようにしてください。


に回してください。

△注意

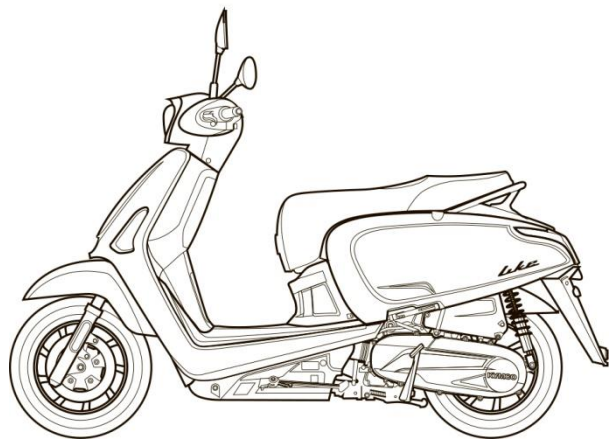
エンジンの排気マフラーにある触媒コンバーターを保護するため、長時間にわたるアイドリングは避け、有鉛ガソリンは使用しないでください。

△注意

スターターモーターへの損傷を避けるため、スターターモーターを連続して5秒以上作動させないでください。始動に失敗した場合は、ガソリン残量とバッテリーの状態を確認し、15秒まってから再始動してください。

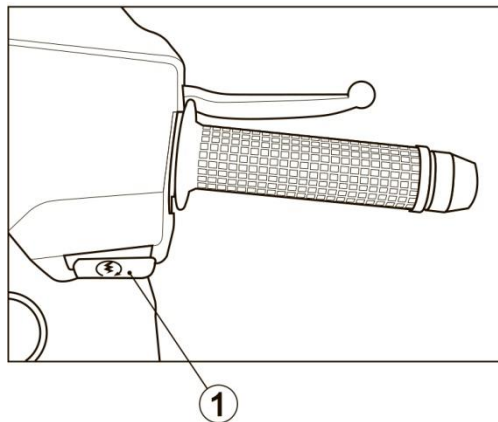
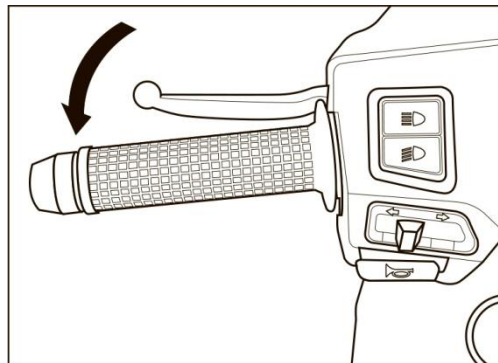
1. センタースタンドをかけてスクーターを停め、サイドスタンドは上げてください。
2. イグニッションキーを差し込んで、「」

操作



操作

3. 左（リア）ブレーキレバーを握ると、電気がつながり、エンジンの始動準備が整います。
4. スロットルを閉じた状態で、スターターボタン①を押し、エンジンが始動したら離してください。
5. エンジンを温めている間は、スロットルを閉じたままにしてください。
6. 乗車前にはその都度エンジンを完全にあたためてから運転してください。



△注意

始動後、スクーターに乗車する前に、エンジンオイルを循環させてください。エンジンに負荷をかける前、エンジンを動作させる前に、エンジンの暖機運転/冷機運転でエンジンを始動後、十分な時間アイドリングさせてください。これにより、エンジンオイルがエンジンの重要な部品に行き渡りません。

操作

ABSシステム (ABSモデルの場合)

ABSシステムは、緊急制動時にホイールロックを防止するための機器です。これにより、ブレーキをかける際に安定性を維持することができます。

ABSによる制動

フロントブレーキおよびリアブレーキレバーに同時に安定した均一なブレーキ操作を行ってください。ABSなしの場合と同じように、同じフリップ力をブレーキレバーにかけてください。

システムは、ホイールロックを防止するため、各ホイールに自動的かつ独立して制動力をかけるように制御します。



ABSは、滑りやすい条件下でのコーナリング中の転倒を防止するものではありません。

操作

ABSの制限

ABSは自動的にブレーキをかけることはありません。正しいタイミングで、正しい大きさの制動力をかける必要があります。

ABSは、ブレーキレバーを操作した後でのみ動作します。



ABSは、安全運転に置き換わるものではありません。ABSがある場合でも、危険は残ります。運転中は、適切かつタイムリーに安全を守る方法で対応してください。

不要なリスクを取らないようにしてください。

前方の車両と十分な車間距離を維持する、スピードを出しすぎない、障害物を予測する、車両の速度を交通状況、天候、道路の状態に合わせるなどの慎重な運転習慣は、安全運転のために不可欠です。

第4章 - メンテナンス

メンテナンスの重要性

安全かつ経済的に、問題のない運転を楽しむためには、スクーターを適切にメンテナンスすることが不可欠です。空気汚染を削減するためにも役立ち、燃費を最大限にまで高めます。

スクーターの適切なお手入れに役立つように、本取扱説明書の以下のページには、適切な間隔でスクーターの点検を実施できるようにメンテナンススケジュールが記載されています。

これらの説明は、スクーターが意図された通常の設計目的にのみ使用されることを前提としたものです。高速で運転し続けている場合や、異常に濡れたエリアやほこりの多いエリアで常に乗車している場合、メンテナンススケジュールに指定されている回数よりもより頻繁な点検が必要になります。お客様のニーズに対する推奨事項につきましては、KYMCOディーラーにご相談ください。

■ **注記：**以降のページに記載される検査、点検の推奨事項やスケジュールを必ず遵守してください。



スクーターが転倒したり、事故に巻き込まれたりした場合は、ご自身である程度の修理を行うことが可能である場合でも、必ずKYMCOディーラーにすべての主要パーツの点検を依頼してください。スクーターのメンテナンスが不適切であったり、乗車する前に問題を解決しなかった場合、事故へとつながる恐れがあり、深刻な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。



スクーターのメンテナンスを実施する時に、エンジンを始動する必要がある場合があります。エンジンを屋内で動作させると危険な場合があります。排気ガスには無色・無臭の一酸化炭素が含まれており、死亡または重傷を引き起こす可能性があります。十分に換気された場所でエンジンを始動してください。可能であれば、屋外で操

保守

作してください。

保守

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュール期間には、毎回乗車前の点検を実施してください。スケジュールの頻度は走行距離計の値または月数のうち、いずれか早いほうに基づいて判断してください。

メンテナンススケジュールチャート：

I：必要に応じて点検、清掃、調整、潤滑油差し、または交換を実施

C：清掃 **R**：交換 **A**：調整 **L**：潤滑油差し **D**：診断 **T**：締め付け

次の2ページにわたり掲載されているメンテナンススケジュールには、スクーターを良好な動作状態に保つために必要となるメンテナンスについて記載されています。メンテナンススケジュールは、公認のKYMCOディーラーによる設計基準や仕様に従って実施する必要があります。

- * 適切なツールやサービスデータを有し、技術的な資格がある場合以外は、KYMCOディーラーに点検を依頼してください。
- ** 安全のため、これらの事項はKYMCOディーラーのみが点検することを推奨します。KYMCOでは、KYMCOディーラーがメンテナンスサービスの後、道路上でのテストを実施することを推奨します。

注記：

1. 走行距離計の読み取り値が大きい場合は、ここに示す点検間隔よりも短い頻度で点検を実施してください。
2. ほこりの多い場所で常に乗車している場合は、こまめに点検してください。
3. 雨天時の乗車やエンジン全開で長時間乗車している場合は、こまめに点検してください。
4. 交換後は5000 km (3000マイル)毎に清掃し、10000 km (6000マイル)毎に交換してください。
5. 5000km(3000マイル)または6か月毎に交換してください。交換には熟練した技術が必要です。
6. 2年に1回交換してください。交換には熟練した技術が必要です。
7. 2000km (1200マイル)ごとに交換し、1000km (600マイル)ごとに点検し、必要に応じてエンジンオイルを追加します。

保守

項目		頻度	いずれか早い方を選択	走行距離計の読み取り値[注記(1)]							参照ページ	
				X 1000 km	0.3	1	3	5	7	9		11
		X 1000マイル	0.2	0.6	1.8	3	4.2	5.4	6.6			
		注記	月数		3	6	12	18	24	30		
*	エアクリナー	注記2			I	R	I	R	I	R	39	
	スパークプラグ	注記4					R		R		43	
*	スロットル操作						I		I		42	
*	バルブの隙間				A		A		A		-	
*	燃料経路						I		I		-	
	クランクケースの通気孔	注記3			C	C	C	C	C	C	-	
	エンジンオイル	注記7		R	R	R	R	R	R	R	36	
*	エンジンオイルスクリーン			C	C	C		C		C	-	
*	エンジンアイドルリング速度						I		I		-	
	トランスミッションオイル	注記5		R		R		R		R	38	
*	駆動ベルト										5000km毎に検査し、20000km毎に交換する	-

保守

項目	頻度	いずれか早い方を選択 →	走行距離計の読み取り値[注記(1)]							参照ページ	
			X 1000 km	0.3	1	3	5	7	9		11
			X 1000マイル	0.2	0.6	1.8	3	4.2	5.4		6.6
注記	月数		3	6	12	18	24	30			
**	クラッチシューの摩耗									-	
	ブレーキオイル	注記6	10000kmごと、または毎年交換する							44	
	ブレーキパッドの摩耗									-	
	ブレーキシステム									-	
*	ブレーキライトスイッチ									-	
**	ステアリングベアリング									-	
*	ヘッドライト照準									-	
*	ナット、ボルト、留め具			T	T	T	T	T	T	-	
**	車輪/タイヤ									51	
*	CVTフィルター					C		C			
*	インジェクタ			D	D	D	D	C	D		

保守

エンジンオイル

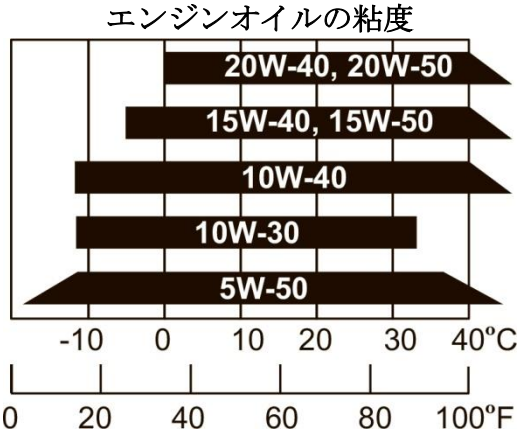
推奨するエンジンオイル

耐用年数を長くするため、高品質の4ストローク用エンジンオイルを使用してください。

API規格の分類に応じてSLオイル以上を選択してください。

エンジンオイルの粘度 : SAE 15W-40

この粘度が入手できない場合は、以下の表に従って代替のエンジンオイルを選択してください。

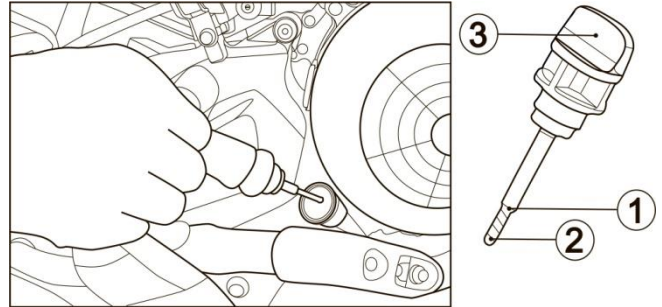


全容量 : 0.9L

交換容量 : 0.8L

エンジンオイルレベルの点検

スクーターに乗車する前に、毎日エンジンオイルレベルを確認してください。レベルは、オイルフィルターキャップ/オイルケーシング③の上位マーク①から下位マーク②のレベルの間に保つ必要があります。



△注意

上線を超える、下線を下回るオイルレベルの状態では、スクーターを動作させないようにしてください。オイルレベルが低下すると、オイル圧力が低下します。油圧が不十分な状態でスクーターのエンジンを稼働すると、エンジンに重大な損傷を与える可能性があります。エンジンオイルを過充填すると、オイル漏れやエアフィルターエレメントの汚染を引き起こす可能性があります。オイルレベルが、オイルレベルゲージの「L」マークより上かつ「H」マークより低いことを常に確認して

保守

ください。

- エンジンを始動し、数分間アイドルリング状態にしてください。
- エンジンを停止してセンタースタンドをかけ、平坦な場所にスクーターを駐車してください。
- しばらく経ってから、オイルレベルゲージを取り出してください。
- オイルを拭き取り、オイルレベルゲージをねじらずに再度差し込んでください。
- オイルレベルゲージを取り出してください。オイルレベルは、オイルレベルゲージの上線と下線の間になるようにしてください。
- 必要に応じて、オイルケーシングの上レベル線にオイルレベルが達するように、指定オイルを追加してください。

補給しすぎないようにしてください。

- オイルレベルゲージを再度差し込んでください。オイル漏れがないか確認してください。



エンジンや関連部品が非常に熱くなる可能性があります。やけどをしないよう、オイルレベルを点検する際には十分ご注意ください。点検を行う前に、エンジンと排気システムを冷ましてください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルの品質は、エンジンの寿命に影響を及ぼす主な要因です。メンテナンススケジュールの指定に従って、スクーターのエンジンオイルを交換してください。

- エンジンを完全に冷やしてからとめてください。
- センタースタンドをかけて車両を駐車してください。
- ドレンボルトの下に排オイルを捨てるための容器を置いてください。
- オイルレベルゲージを取り外してください。
- ドレンボルトを取り外し、オイルを完全に抜いてください。
- ドレンボルトを指定トルクで締めてください。
- オイルレベルゲージの上線に達するようにオイルを追加してください。
- オイルレベルゲージを所定の位置にしっかりとねじ込んでください。

締め付けトルク

エンジンオイルドレンボルト : 25N·m (2.5kg·m、18ft·lb)

△注意

エンジン部品の焼き付きを防止するため、純正のエンジンオイルと同じ品質で同グレードのエンジンオイルを使用してください。

保守

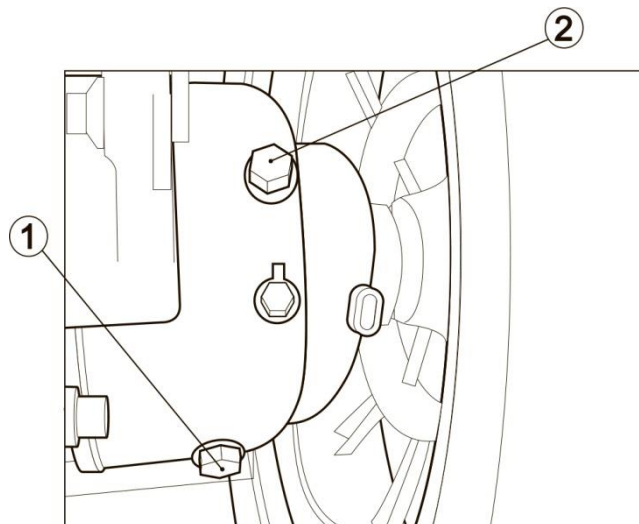
トランスミッションギアオイルの交換

1. センタースタンドをかけてスクーターを駐車してください。
2. ギアオイル排出ボルト①を取り外してください。
3. ギアオイルフィルターボルト②を取り外し、リアホイールをゆっくりと回転させ、ギアオイルを抜いてください。
4. 以下に記載される容量に達するまで推奨オイルを入れてください。
5. トランスミッションフィルターボルトを取り付けて、指定のトルクで締め付けます。

ギアオイルタイプ : SAE 90

全容量 : 0.14L

交換容量 : 0.12L



⚠注意

ベアリングの焼き付き、ギアセットの損傷を防止するため、純正のギアオイルと同じ品質で同グレードのギアオイルを使用してください。

⚠注意

オイル廃棄に関しては地域の規定に従い、禁止事項を遵守してください。

保守

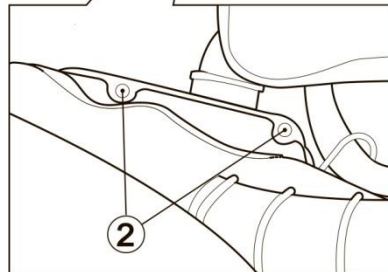
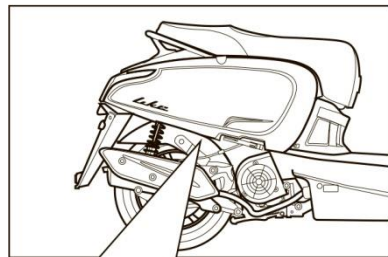
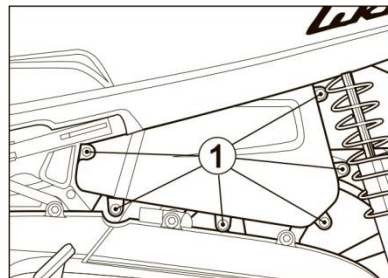
エアクリナーフィルターエレメント

エアクリナーフィルターエレメントは、KYMCOディーラーが定期的に点検する必要があります。

エアクリナーカバーの取り外し

1. エアクリナーカバーからネジ①を外します。
2. スクーターの右側からネジ②を外します。
3. エアクリナーカバーを取り外します。

■ **注記：** 異常に濡れたエリアやほこりの多いエリアで乗車している場合は、エレメントをこまめに点検してください。



保守

- **注記：**図のようにカウルを動かすと、エアクリナーカバーを外しやすくなります。フレーム本体とカウルを取り付けているボルト ③ を外し、フレーム本体カバーを外側に引いてスペースを確保し、ネジ ④ が接触しないようにしながら、カウルを矢印の方向に引いてください

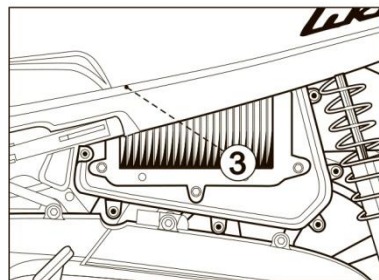
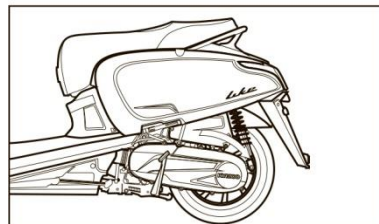
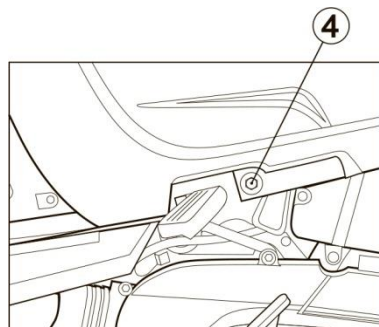
エアクリナーフィルターの取り外し

1. エアクリナーフィルターからボルトを外し、新品と交換します

- **注記：**エアクリナーはスクーターの重要な部分です。エアクリナーのサービスについては、KYMCOディーラーにお問い合わせください。

△注意

フィルターの取り付けが不適切な場合、水や汚れがエンジンに入り、早期摩耗を引き起こす可能性があります。誤ったKYMCOエアクリナーエレメント、または同等の品質を持たない非KYMCO製のエアクリナーエレメントを使用した場合、エンジンの早期消耗あるいは性能上の問題の原因になることがあります。

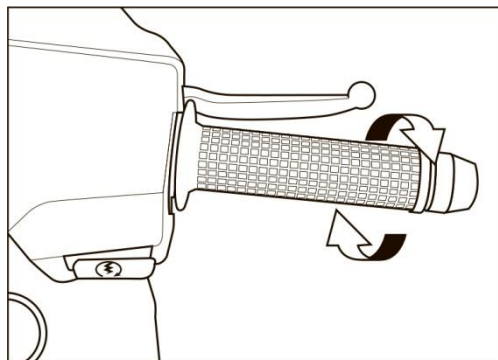


保守

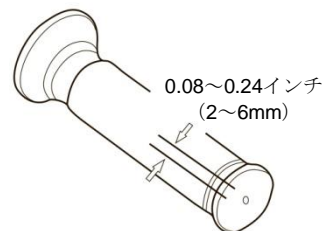
スロットル操作

スロットル操作と遊びは定期的に点検および調整する必要があります（乗車前点検の一部として）。

1. 乗車する前に、ステアリングを左右に完全に切った状態で、完全開位置から完全閉位置までの滑らかな回転を確認してください。
2. 右に示すようにスロットルの遊びを測定してください。



スロットルの遊び : 2.0～6.0 mm (0.08～0.24インチ)



- **注記**：スクーターのスロットルの遊びの調整が必要な場合は、KYMCOディーラーにサービスを依頼してください。

保守

スパークプラグ

ください。

非金属製ブラシまたは適切な溶剤でスパークプラグにある炭素堆積物を取り除いてください。清掃後、スパークプラグギャップ隙間ゲージを使って、スパークプラグのギャップが指定された制限内になるように調節してください。スパークプラグは定期的に交換する必要があります。

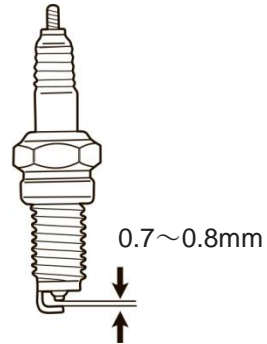
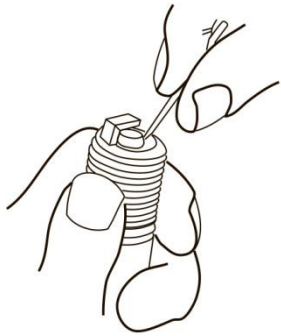
代替スパークプラグを選択するときは、KYMCOディーラーに相談することを推奨します。

推奨されるスパークプラグ : CR8E (NGK)

△注意

不適切なスパークプラグはエンジンに正しくフィットしなかったり、熱領域が適切でないことがあります。これによりエンジンに深刻な損傷が発生する場合がありますが、これらは保証の対象となりません。エンジンに深刻な損傷が発生する恐れがあるため、熱価が適切でないスパークプラグは絶対に使用しない

保守



スパークプラグのギャップ : 0.7~0.8mm

保守

ブレーキ液

ブレーキ液レベルの点検

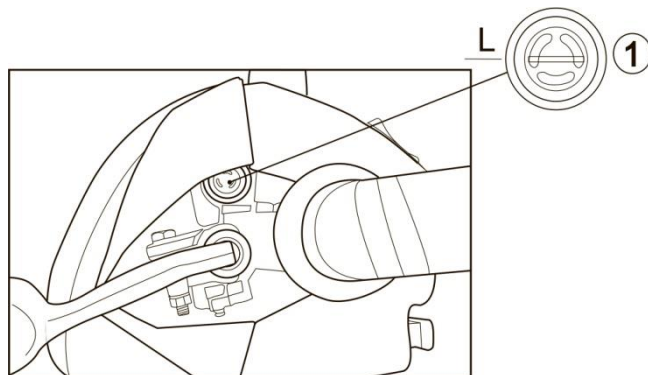
スクーターが直立になった状態で、フロントブレーキとリアブレーキの液レベルを確認してください。

メンテナンススケジュールに指定されるタイミングで、ブレーキフルードを交換してください。

レベルは下レベル線①より上にくる必要があります。レベルが「L」下位マークの位置またはそれより下にある場合は、ブレーキパッドが摩耗していないか、漏れがないか確認してください。

ブレーキ液の種類：DOT-4

- **注記：**ブレーキフルードが漏れていないことを確認してください。ホースや取付け具が劣化していたり、ひび割れていないか確認してください。



密封された容器に入ったDOT 4ブレーキフルードのみを使用してください。取り外す前にフィルターキャップを清掃してください。

保守

保守

ブレーキパッドの検査

ブレーキパッドの厚みを検査し、適切に制動するための十分なライニングがあるかどうかを確認します。

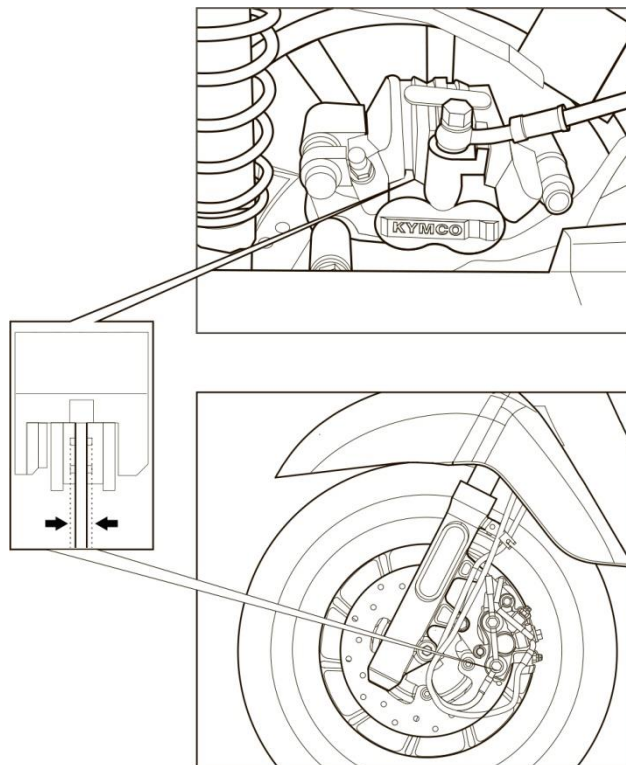
ブレーキパッドの摩耗表示溝が目で確認できなくなっている場合、ブレーキパッドが摩耗し交換が必要なことを示します。

乗車前に、ブレーキを数回かけ、適切なレバーストロークに到達し、しっかりした制動操作が感じられるかどうかを確認してください。これにより、ブレーキパッドがブレーキディスクにしっかりと押されていることが確認できます。



乗車中にブレーキレバーを頻繁に使うと、ブレーキの摩耗が早まります（ブレーキのドラッグング）。

ブレーキパッドが摩耗すると、停止距離が長くなり、事故が起きやすくなります。



保守

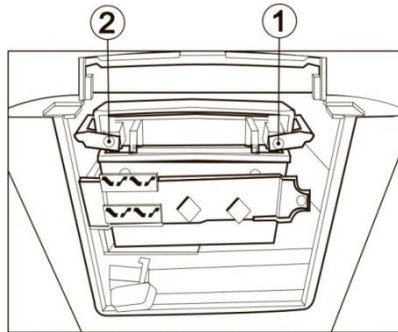
バッテリー

純正バッテリーは密閉型ですので、バッテリーの電解液量を確認したり、蒸留水を加えたりする必要はありません。

■ **注記：**バッテリーが消耗しているか、電解液が漏れている場合は（始動不良やその他の電気系統故障の原因になります）、直ちにKYMCOディーラーにご連絡ください。

- 負極 (-) 端子①を取り外してください。
- 正極 (+) 端子②を取り外してください。
- 使用できなくなったバッテリーを取り外してください。
- 取り外しと逆の順序で再度取り付けてください。

■ **注記：**キャップストリップを取り外すと、バッテリーは恒久的に破損します。



バッテリーには重大なやけどを引き起こす硫酸が含まれているため有害かつ危険です。皮膚、目、衣服に触れないようにしてください。また、バッテリーの近くで作業するときは、必ず目を保護してください。接触した場合は、次の救急処置を実施してください。

触れてしまった場合：十分な水で洗い流してください。飲み込んでしまった場合：大量の水または牛乳を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。

目に入った場合：15分以上水で洗い流し、直ちに医師の診察を受けてください。

バッテリーは爆発性のある水素ガスを生成します。そのため、バッテリーに火花、裸火、タバコなどを近づけないようにしてください。閉鎖空間で充電するときは、十分な換気を行ってください。

すべてのバッテリーをお子様の手の届かないところに保管してください。

保守

ヒューズ

ヒューズの不具合が頻繁に発生する場合、電気系統の短絡または過負荷を起こしている可能性があります。



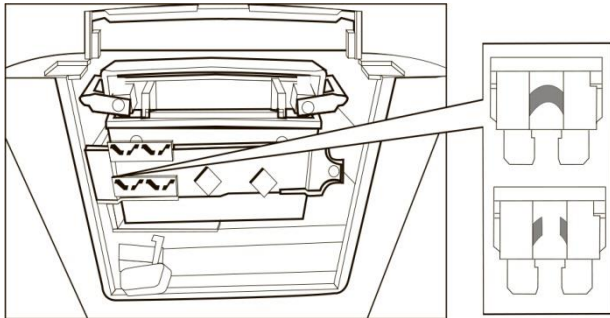
- 異なる定格のヒューズを絶対に使用しないようにしてください。
- 短期間に新しいヒューズが切れる場合は、KYMCOディーラーに直ちにご相談ください。

ヒューズの割り当て

機能するヒューズはいずれもヒューズボックス内にあります。ヒューズボックスカバーの背面にはステッカーが貼付されています。ステッカー上の指示に従い、ヒューズを取り付けてください。

ヒューズの仕様

10A*2 15A*1 25A*1



保守

タイヤ

タイヤ圧

タイヤ空気圧が不十分な場合、摩耗が発生するだけでなく、乗車の安定性にも影響を及ぼします。タイヤの空気圧が低すぎると滑らかに回転しなくなります。また、タイヤの空気圧が高すぎると地面との接触面積が小さくなり、スキッドが発生したり、十分な制御が行えなくなったりします。空気圧が、常に指定されている制限の範囲内にあることを確認してください。

■ **注記**：定期的なメンテナンススケジュールに記載されている間隔で、タイヤの空気圧とタイヤトレッドの状態を確認してください。安全性とタイヤの耐用期間を最大限に高めるため、タイヤ圧はさらに頻繁に点検してください。

■ **注記**：タイヤ圧は、タイヤが低温の時のみ調節してください。

フロントタイヤ (1人乗車) : 1.75 kg/cm²

リヤタイヤ (1人乗車) : 2.0 kg/cm²

フロントタイヤ (2人乗車) : 1.75 kg/cm²

リヤタイヤ (2人乗車) : 2.25 kg/cm²

タイヤサイズ：

フロントタイヤ：110/70-12 チューブレス

リヤタイヤ：130/70-12 チューブレス



以下の指示に従わなかった場合、タイヤの故障による事故が発生する可能性があります。ライダー個人の安全は、スクーターのタイヤの状態に依存しています。

タイヤの状態とタイヤ圧を確認し、乗車前には毎回空気圧を調整してください。車両に過度な負荷をかけないようにしてください。

指定された制限までタイヤが摩耗している時、または切断部や亀裂などの損傷が見つかった場合は、タイヤを交換してください。

本取扱説明書に指定されているサイズとタイプのタイヤを常に使用してください。

タイヤを取り付けたあとには、ホイールのバランスを調整してください。タイヤの慣らし走行を行わなかった場合、タイヤがスリップしたり、制御不能に陥る可能性があります。

新しいタイヤを取り付けた車両に乗車するときには、地面との間のグリップ力が制限されるため、特に注意してください。

新しいタイヤに交換したときは、最初の160 km (100マイル)の間は、過度な加速、激しいコーナリング、強い制動を避けた慣らし運転を実施してください。

保守

清掃

スクーターを定期的に清掃して表面仕上げを保護し、損傷、摩耗、オイル、クーラント、またはブレーキ液の漏れがないか調べます。

スクーター、または自動車の表面用に設計されていない製品を使用して清掃しないようにしてください。スクーターの金属、塗料、プラスチックに損傷を与える可能性のある刺激の強い洗剤や化学溶剤が含まれている場合があります。

■ **注記**：乗車後などスクーターがまだ熱い場合は、エンジンと排気システムが冷えるまで待ってから洗浄してください。強力な水圧はスクーターのコンポーネントに損傷を与える可能性があるため、高圧水スプレー（コイン式洗車など）の使用は避けてください。

スクーターの洗浄

1. 冷水でスクーターをくまなく洗い流し、汚れを取り除いてください。
2. スポンジか柔らかい布を使って、冷水でスクーターを洗ってください。マフラーの排気口や電気部品に水を向けないようにしてください。
3. 中性洗剤と水の液剤で湿らせた布またはスポンジを使って、プラスチック部分を洗ってください。汚れた部分を優しくこすり、真水で頻繁に洗い流してください。ブレーキ液やその他の化学溶剤は、プラスチックや塗装面に損傷を与える可能性があるため、スクーターに近づけないように注意してください。
4. 清掃後、多量の清浄水でスクーターをくまなく洗い流してください。このすすぎは、合金部品を腐食させる可能性のある洗剤の残留物を取り除くために必要です。

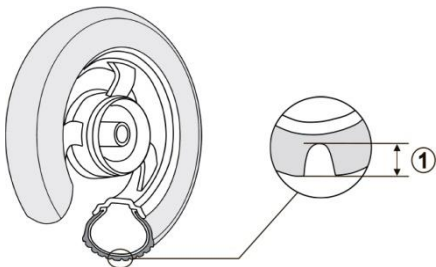
保守

タイヤの点検

タイヤの摩耗は、タイヤのプロファイルを変化させ、車両の取り扱い特性に影響を及ぼす可能性があります。各乗車前にタイヤの状態を確認してください。トレッド深さが次の制限を下回る場合は、タイヤを交換してください。

タイヤトレッドの摩耗限界：フロント**0.8mm**
リア**0.8mm**

- **注記：**トレッド深さ①を測定してください。目視検査で判断しないようにしてください。



- **注記：**タイヤのパンクを修理した後は、必ずホイールバランスを調整してください。適切なホイールバランスは、タイヤと地面の間の異常な接触を避け、不均一なタイヤの摩耗を回避するために重要です。

- **注記：**亀裂または切断部などの損傷が確認できる場合は、タイヤを交換してください。



タイヤを不適切に修理、取り付け、バランス調整を行うと、スクーターの制御を失ったり、タイヤの寿命が短くなったりする可能性があります。

適切な工具と経験が必要であるため、公認のKYMCOディーラーにタイヤの修理、交換、バランス調整を依頼してください。必ず各タイプの側面に矢印より示される回転方向に従い、タイヤを取り付けてください。

保守

保管

長期間保管した後、良い状態で使用できるように、必要な手順を実施してください。

- 保管前に必要な定期メンテナンスまたは修理を実施してください。
- エンジンを暖機運転した後、新しいオイルに交換してください。
- エンジンが停止するまで、アイドリング状態で稼働させ、燃料タンクが空であることを確認してください。
- バッテリーを取り外し、直射日光がなく、凍結温度にならない場所に保管してください。1か月に一度、ゆっくりと充電してください。
- 車両を洗浄し、完全に乾燥させてください。
- 未塗装の金属に腐食防止剤を塗布してください。
- すべてのタイヤを定格圧力に設定し、スタンドを立て、タイヤが地面に接しないようにしてください。
- 車両を覆い、屋内の乾燥した場所に保管してください。

保管状態からの取り出し

- 車両からカバーを外してください。
- バッテリーの電圧を確認し、必要に応じて充電し、車両に取り付けてください。
- フュエルタンクにガソリンを給油してください。
- 「乗車前の点検」のセクションに記載されるすべてのポイントを確認してください。



ガソリンは容易に燃焼および爆発します。注意散漫な状態でガソリンを給油するとやけどを負い、重傷につながる可能性があります。

エンジンを停止し、熱源、火花、裸火などから遠ざけてください。

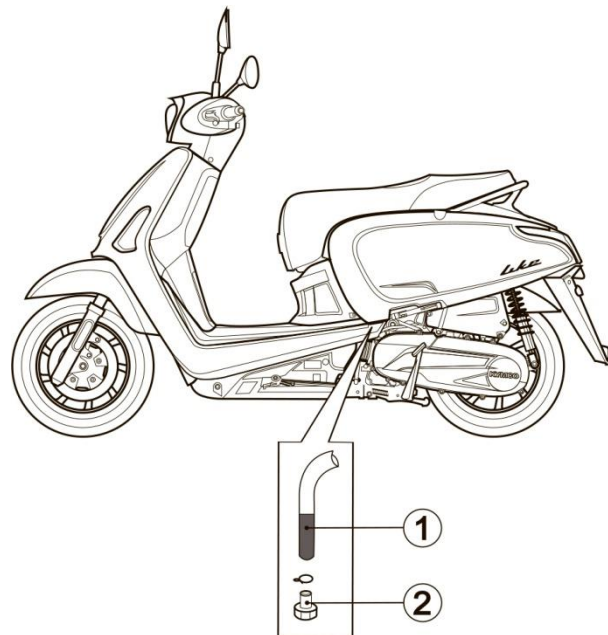
ガソリンの給油は屋外で実施し、漏れた場合は直ちに拭き取ってください。

保守

クランクケースブローバイドレイン

エアクリナーにはドレインチューブ ① が搭載されています。これは、クランクケースから濃縮されたオイルを排出するために使用されます。

透明はドレインチューブ内に蓄積する液体が特定の量に達したら、クリップ ② を取り外し、液体を容器に排出させ、所定の位置に再取り付けしてください。



- **注記：** 頻繁に雨の中で乗車した場合、頻繁にフルスロットルで運転する場合、車両が転倒した場合は、頻繁に排出させてください。オイル廃棄規制を遵守してください。

排出制御

クランクケース排ガス浄化システム

このスクーターには、クローズドクランクケースシステムが装備されています。ブローバイガスは、吸気システムを介して燃焼室に還流されます。この調整により、ブローバイガスが大気中に拡散されるのを防止できます。

排気ガス浄化システム

スクーターからの排気放射は、燃焼管理、燃料供給、イグニッション設定、排気システムにより制御されます。また、排気システムはマフラーに触媒コンバーターが搭載されています。

蒸発ガス浄化システム

蒸発ガス浄化システムは、ガソリン蒸気が燃料タンクや燃料システムから大気中に逃げるのを防止するために使用されます。

ノイズ排出浄化システム

スクーターのエンジン、吸気および排気システムは、連邦騒音規制または地域の騒音規制に準拠するように設計されています。吸気システムまたは排気システムを変更しないようにしてください。これは、騒音規制に反する行為です。



元の工場出荷時の設計または設定を適用しないようにしてください。これにより、騒音または排出レベルが悪化する場合があります。

AROMA 150の仕様

寸法

全長.....	1920 mm
全幅.....	675 mm
全高.....	1125 mm
ホイールベース.....	1320 mm
シート高さ.....	760 mm
車両重量.....	128kg

容量

エンジンオイル（交換）.....	0.8 L
トランスミッションオイル（交換）.....	0.12 L
燃料タンク.....	6.5 L
最大耐荷重.....	278kg

エンジン

タイプ.....	4ストローク、空冷式OHC
排気量.....	150 cc
ボア&ストローク.....	59 X 54.8 mm
圧縮比.....	10.9 : 1
スパークプラグ.....	CR8E
アイドル速度.....	1800 rpm
冷却システム.....	強制空冷
最大馬力.....	9.8kW/8500rpm
最大トルク.....	12Nm/6500rpm
起動システム.....	電気スターターモーター

シャシ

タイヤのサイズ、フロント.....	110/70-12
タイヤサイズ、リア.....	130/70-12
ブレーキ（フロント）..	ABS付ディスクブレーキ
ブレーキ（リア）.....	ABS付ディスクブレーキ

電気関係

イグニッションタイプ.....	ECU
バッテリー.....	12V 8Ah (YTX-9B)
ヘッドライト.....	12V 3W*6
尾灯・ブレーキライト.....	LED
ウィンカーライト.....	12V 0.15W*2 1W*2
ナンバープレートライト.....	12V 5W
ポジションライト.....	3V0.2W*2
ヒューズ.....	15A*1、10A*2、25A*1